

第150回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日時 平成31年4月16日(火) 午後3時～午後4時
場所 503議室
出席者 6名
 峯岸正雄、芝勝治、友國洋、渡辺康三、高橋勝緒、高橋絹世
傍聴者 なし
事務局 環境課 課長 亀井、主幹 加藤、塩野

1 開会

- 峯岸会長から開会のあいさつ。

2 議題

(1) 平成30年度活動報告について

- 和光・緑と湧き水の会

パンフレットを配らせていただいたが、これは昨年度埼玉県NPO基金の助成を受けて作成した。団体の活動を紹介するパンフレットである。また、市内の緑地・湧水地も併せて紹介している。会では、自然の特徴を「知る」活動、それを「活かす」活動、保全をする「守る」活動をしている。そして、観察会やフォーラム、色々なイベントに参加して、知ってもらおう活動をしている。活動を始めてから20年程度経ったが、その間に富澤湧水が特別緑地になり、大坂ふれあいの森は継続してふれあいの森としてなりたっている。新倉ふれあいの森の活動も継続している。竹林の整備、斜面林の草取り、カタクリの移植等を行っている。活動フィールド別に見ると、新倉ふれあいの森は竹林があり、公の場所としてタケノコ掘り等が毎年できる環境を維持しており、貴重種のキンランが増えつつある。富澤湧水は2015年に白子宿特別緑地保全地区に指定をされ、ここが湧き水の会の原点の場所である。地層から湧き水が沸きだしているのが集まって湧水の通路を作っている。サワガニ等が住める都会の中でも珍しい場所である。樹林公園はドングリを育てて、子供達と観察会が出来る森が出来上がっている。最後に大坂ふれあいの森はカタクリやイチリンソウが自生している。植物の豊富な場所で、湧水もある。このようなフィールドを保全し、貴重な植物の保護や生態系の維持、生物多様性を大切にする活動を行って、観察会で皆さんに紹介している。和光の緑と湧き水を次の世代に残す事業として、2018年度に県からの助成金でトラストについてのセミナーを開いた。今後、和光の制度に向けた方向に進んでいけばよいと思う。それから、環境ボランティアの体験会を行った。なかなか集まらなかったが、広報を通じて活動を紹介する中で少しずつ、大事なところを紹介し、その後保全に参加していただけるようになった。今後もこういうやり方なら続けていけるという思いでいる。

- 和光NPO法人太陽光発電所ネットワーク埼玉
欠席のため次回に報告していただく。
- 和光自然環境を守る会
越戸川での活動が23年となる。越戸川まつりは従来埼玉県朝霞県土整備事務所と共催していたが、数年前に単独事業に変わり、昨年は22回目の開催となった。毎年プログラムを見直し、工夫・改善している。最近新しく加わったものとして、和光消防署の協力を得て、防災意識の向上のため消防車と地震体験車に出動いただいております。去年は102人が激震を模擬体験した。今年も秋に計画している。次に、夏休みジャブジャブ大会は環境課と共催ということで、まさに埼玉県水辺再生10周年に10回目が無事終わった。それから、美化活動として、毎月第1土曜日は川掃除、第2木曜日は特定の管理責任者がいない花壇を直接世話している。様々な植物が植えてあるので、雑草取りや樹木の剪定等をしている。去年は川掃除と花壇の手入れを合計21回行った。参加者は延べ215人で1回あたり約10人となる。215人の中には、夏休みに参加した中学生11人がいる。また、和光南特別支援学校の先生方11名が含まれている。川の再生工事を契機に始めたこととして近隣小学校の総合学習があり、8年前に新倉小学校、その翌年北原小学校で共に5年生を対象に実施している。授業時間が限られているので、子どもたちに少しでも長く川で魚たちと仲良くしてもらいたいという思いで注意等は極力短時間で済ませて、川の生き物探しに励んでもらっている。最後に水辺再生工事後の生き物の増加・多様化は著しく、川の再生工事の間カワセミが姿を隠してしまっていたが、つがいで戻ってきている。今年もほぼ同じ内容とはいえ、工夫・改善しながら活動を継続して行きますので、引き続き関係各位のご協力をお願いしたい。
- 大坂ふれあいの森を守る会の活動について（追加）
2009年度に発足し、2011年度には単年度の協働事業ということで、市民緑地大坂ふれあいの森の保全と活用という活動を行った。今日配布したパンフレットはその時の活動も含めて作成した大坂ふれあいの森ガイドブックである。白子緑地保全地区と大坂ふれあいの森は一続きの緑地になっている。和光市の大変重要な白子グリーンベルトである。最近、隣接地が売却されてしまったことと、すぐ後に国道254号線のところが、立派な森があったのがすっかり開発されてマンションになっている状況で、大変緑地が減っている。それからわんぱく広場のところの木も全部切られてしまいましたし、その下のところも工事が進んでいて武蔵野的なカタクリのある斜面地が今は完全に切り崩されて、マンションが建ちつつあり、そういったことを考えると、ここは重要であるし、借地であるので、他課と連携し、トラスト制度なども勉強して、これ以降残るように何らかの対策を根本から考えていかないといけないと思う。活動としては清掃をしており、地権者からも喜ばれている。隣の敷地との境界が沼地になっている。気にしておいていただきたいのが、ふれあいの森の東側からずっと湧き水が染み出していることで、何か問題が起きないかと心配している。今まで我々はふれあいの森の中では無いと思っていた。沼地からは蚊が大量発生している。

水路を整備して水はけを良くして蚊の発生を防げないかと考えている。

(2) 広報誌「環（わ）」の発行について

- 何件か出ているが25日が原稿締め切りとなっているのでよろしくお願ひしたい。
- 大学1年生からも寄稿してもらうことになっている。

(3) その他

- 7月にフィールドワークを開催する予定だが、希望地の案があれば環境課へお願ひしたい。
- 会議への出席率が低いように思う。

3 閉会